

部会別研修 3部会

すこやかな心と体をはぐくむ健康教育 ～教職員の危機管理能力を高める実践を通して～

I はじめに

3部会では、平成30年度まで「児童生徒の心の危機管理能力を高める支援」をテーマに研究を進めてきた。その後、新型コロナウイルス感染症や熱中症、アレルギー、自然災害等に直面し、学校現場での危機管理意識や、緊急時における教職員の対応力がさらに求められるようになった。そこで、「教職員の危機管理能力」に焦点を絞り、現在のテーマに設定した。

そのような中、健康安全課指導主事から、学校管理下の安全配慮義務や、教職員の危機管理意識を高めることの必要性を学び、子供の命を守るためには、すべての教職員が初期対応をする可能性があるということを再認識した。そこで、保健主事や養護教諭だけが理解するのではなく、すべての教職員に危機管理能力を高めるための知識と技能を身に付けることができる研修が必要であると考えた。

II 研究経過

1 令和2～4年度

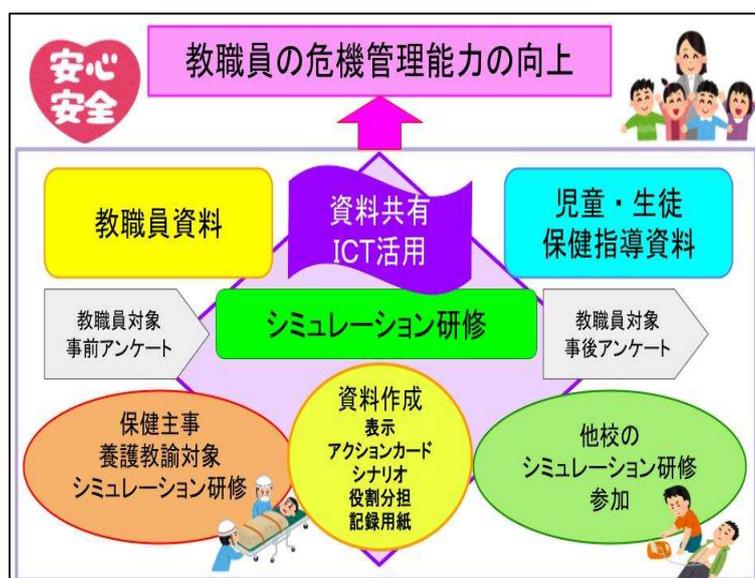
- 中学校区別で危機管理能力を高める実践をまとめ、部会内で共有。

2 令和5年度

- 保健主事、養護教諭に危機管理に関するアンケート実施。
- 講師を招き、部会の保健主事、養護教諭を対象にした「危機管理シミュレーション研修」を実施。
- シミュレーション班、アンケート班、ICT班、教職員資料班、児童生徒保健指導資料班の5つの班を作り共有資料を作成。

3 令和6年度～本年度まで

- 各校で教職員を対象に共有資料を使いシミュレーション研修を実施。
- 教職員資料、児童生徒保健指導資料の活用。



<研究経過図>

III 研究方法

- 1 各校でシミュレーション研修を実施する。
- 2 教職員の危機管理意識を高める資料（教職員用・児童生徒用）を作成し、共有する。
学校全体の危機管理能力を高めるためには、教職員のみでなく、児童生徒の危機管理能力を高めることも大切だと考え、児童生徒への保健指導を実施する。
- 3 ICTを活用した情報共有の仕方を検討する。

IV 研究内容

1 シミュレーション研修

(1) 危機管理に関するアンケート実施（保健主事、養護教諭対象）

部会内の保健主事、養護教諭を対象に、教職員の危機管理能力を高めるために取り組んでいる事、困っている事についてのアンケートを実施した。中でも、シミュレーション研修に関する内容が多く上がり、主に3つの困り感が出された。それぞれの改善案を検討し、各校でシミュレーション研修ができるよう研修を進めた。

① 日程調整と時間確保が難しい

部会の各校でシミュレーション研修が実施できるよう、顧問校長を通して部会校長会に依頼した。そして、前年度のうちに教育課程の中に組み込み、すべての小中学校で実施することができた。

② 実施方法や内容に自信が持てない

令和5年度、第3回部会研修で、浜松市南消防署救急グループ救急救命士を講師に招きシミュレーション研修を実施した。自分たちが実際に体験することで全体の流れをイメージしながら重要なポイントに気付く事ができた。自校で行う際のアドバイスや疑問点について質疑応答ができ、有意義な研修となった。

また、部会校長会等の理解と協力を得て、危機管理に関する校内研修を計画・運営する立場となる保健主事や養護教諭が、他校のシミュレーション研修を参観できるようにした。部会で共通した出張文書を作成したため、他校の研修を参観しやすい体制ができた。

さらに、研修会実施後の感想等を Google Classroom で共有したことで、他校の実践を自校の研修に生かすことができた。

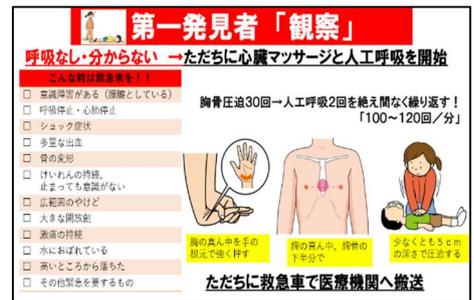
	研修内容	研修方法	指導者	研修日	時間	場所	参観の可否	参観条件 その他	研修後の反省 (部会で共有したいこと)
例	食物アレルギー 熱中症	講義 シミュレーション	保健主事・養護教諭 OO消防署	7月30日(火)	10:00~11:30	会議室	可	0名まで	研修アンケートは研修終了後実施が すめ
南陽中	熱中症	講義 シミュレーション	保健主事 養護教諭	7月28日(月)	13:00~15:00	教室 (南校舎2階)	可		・熱中症で同じ内容で研修しました。1 回目の反省をきいて2回目の準備が できました。演習の振り回りの際、ス レットシートを使うと、全員で見るこ とができるし、意見が交差する必要 のなかった。 ・参観に来てくださった方からの意見が とてもありがたかった。 ・研修時間が各クラスにあるといいと 意見が出た。
芳川北小	食物アレルギー 熱中症	シミュレーション	養護教諭	7月30日(火)	13:30~15:30	教室	可		・関係共有の仕方が個人との反省が出 た。途中から来た養護教諭が全体の 把握が難しい。 ・記録を写真のみでしたが、定時で何 かが保護者をしてあげようか。
芳川小	①水泳 ②食物アレルギー 熱中症	シミュレーション	養護教諭	①5月25日(土) ②7月30日(火)	①PM ②8:30~10:30	①プール ②教室他	可	中学校区で は参観	・本校は保健室が職員室から遠く、 養護教諭不在時に応用できない。備 材がある。参観には養護教諭の 活用し、職員が保健室の備品を見 て活用してもらえるようにした。 ・職員から反応用紙をすぐに取ら せるよう、研修開始前に貸して おきたいとの意見が出た。

＜部会内 校内研修計画共有 Google スプレッドシート＞

③ 準備への不安がある

表示、アクションカード、研修のレジメ、シナリオ、役割分担、記録用紙を分担して作成した。

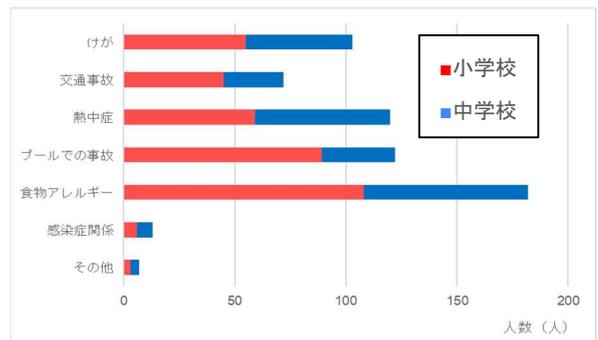
共有資料を使うことで、必要な資料をすぐに活用できる準備ができた。資料が揃っているため安心感があり、準備に関する不安が解消された。



＜共有資料 アクションカード＞

(2) シミュレーション研修の事前事後アンケート実施（3部会の教職員対象）

事前アンケートでは、「学校で緊急時に遭遇したとき、対応について不安に思いませんか。」の質問に、中学校 90%、小学校 96%が不安に思っていると回答した。特に対応に不安を感じる事例は、小中学校ともに食物アレルギー事例が一番多く、次いでプールでの事故、熱中症、けがであった。



＜アンケート結果 対応に不安を感じる事例＞

緊急時に適切な判断・行動がとれるのか不安に思っている教職員が多くいることが分かった。

事後アンケートでは、「緊急時の対応について不安が軽減しましたか。」の質問に、小中学校ともに97%が軽減したと回答した。緊急時の対応の仕方や、心肺蘇生、119番通報、記録などそれぞれの役割が明確になり自信につながったと思われる。また、定期的にシミュレーション研修をやってほしいという感想が多くみられた。

2 教職員の危機管理意識を高める資料

(1) 教職員資料

効果的な資料共有のため、キーワードを「前始末の徹底」と「見える化」の2点に絞り取り組んだ。主に、安全配慮（校内緊急体制、校内研修資料、危機管理マニュアル活用方法等）、ヒヤリハット・事故報告（校内・部会内の共有方法等）、アレルギー対応（教室掲示、献立チェック方法、宿泊時持ち出し等）、熱中症対策（フローチャート、チェックシート、WBGT掲示等）について、既存資料の整備や新たな資料を作成し、Google Classroomにて共有した。

① ヒヤリハット・事故報告の校内共有【日めくりの活用】

教職員が日々危機管理について考える機会が必要だと考え、東陽中では出勤印押印の際に見ることができる日めくりを作成した。そのデータを部会内で共有し、各校で設置した。日めくりには、ハインリッヒの法則や健康観察の着眼点等の危機管理のポイントや、自校の校内事故件数・発生状況が載せることができる。教職員からは「事故報告の事例から危機管理を意識できる。」「毎日見ることで、危機管理の意識が高まる。」との声が聞かれている。



<教職員への啓発 日めくり>

② 校内緊急時持ち出しセットの表示

緊急時に持ち出す物を表示したセットを共有した。各校で職員室やプール近くの目につく場所に掲示し、迅速に対応できるようにしている。南の星小では、水泳指導時の緊急時対応のシミュレーション研修を実施し、持ち出しセットや救急セットを全職員へ周知した。教職員からは「実際の授業場面で、どのように対応するのか、必要な物は何かを考える機会になった。」との振り返りがあった。



<持ち出しセット・救急セット>

③ 危機管理マニュアルについての発信

危機管理マニュアルを項目別でA4サイズにまとめ、部会内で共有し教職員資料として活用した。東部中では生活部会で事故の未然防止や振り返り等の参考にしている。項目別になっているため、PCの掲示板にて定期的な注意喚起もできる。管理職からの「未然防止の取り組みについて次の会議で協議したい。」との提案や、教職員からの「定期的に目に留めることにより、学年会で話題にできる。」との声もあり、校内の危機管理意識向上につながっている。



<危機管理マニュアルの発信>

(2) 児童生徒保健指導資料

① 「近くにいる友達が倒れたらどうする？」スライド資料作成

中学校新学習指導要領では、心肺蘇生法とAEDの取り扱いについて、「実習を通して応急手当ができるようにする」ことが示されている。また、小学生からのBLS教育についても話題になっており、発達段階に応じた安全教育の必要性が求められている。

児童生徒は校内事故の第一発見者になる可能性があることから、緊急時に迅速に対応するためには、児童生徒への指導も必要だと考え、友達が倒れたという緊急事態にどう行動したらよいのか考えることができるよう、スライド資料を作成した。スライドはクイズを交えながら、児童生徒が興味を持って見られるようにした。小学校低学年版・中学年版・高学年版、中学校版を作成し、各校で保健指導を行った。実践の様子はGoogle スプレッドシート上で情報共有した。

東部中ではスライド資料に、生徒保体委員が倒れた生徒役、発見者役になる場面の動画を加えて指導を行ったため、生徒は興味深く視聴することができた。新津小では指導後に、児童保健委員会活動で校区のAEDマップを作成し、自宅近くのAEDを確認できるようにした。各校の実態に合わせて、工夫した指導を行うことができた。

危機管理の視点で、児童生徒が知っておいてほしいこと、行動してほしいこと等を具体的に伝えていくことの大切さを改めて感じた。



<AEDマップ>

② 「AED・担架表示」掲示物作成

校内で児童生徒にもAED、担架の設置場所を知ってもらうため、掲示物を作成し部会内で共有した。可美中では、体育館・剣道場・卓球場・昇降口の4カ所に掲示をした。いろいろな場所に掲示することにより、多くの人々が意識し、AED、担架がある場所を覚え、いざという時に活用できることを期待している。



<AED・担架表示>

3 ICTを活用した資料の共有

部会内で実践資料を共有するために、Google Classroomを活用した。

Google Classroomの授業内に、各班で作成した資料をトピックに分けて投稿した。資料を一から作る時間が省略され、保健指導や校内研修資料が充実した。資料活用後の工夫点や修正点もGoogle スプレッドシートを利用して共有することで、より良い教材作りに役立てている。

校内研修計画のトピックでは、Google スプレッドシートで研修内容・研修方法・研修日程や指導者について入力し、部会内で共有した。校内研修実施後に反省を入力することで、研修を実施した学校の反省を基に、自校の研修計画を練り直した学校もあり、研修内容を工夫することにつながった。



<Google Classroom
トピックの一部>

V 研究の成果と今後の課題

各校でシミュレーション研修を実施するにあたり、年間計画に研修会を位置づけることで、部会内の全小中学校でシミュレーション研修を行うことができた。また、中学校区で見合うことを部会校長会で諮っていただき、他校の研修会に参加することができた。他校の研修会を参観することで、経験の少ない保健主事や養護教諭も自信をもって行うことができた。さらに、シミュレーション研修後の振り返りでは、参観した保健主事や養護教諭から救急処置の問題点などを伝えることもでき、充実した研修会となった。

また、3部会の教職員全員にシミュレーション研修の事前事後のアンケートを実施したことにより、教職員の危機管理に対する意識の変化や、不安に思っている事、今後実施したい内容等を知ることができた。危機管理意識の高まりとともに、改善点も明確になった。

危機管理意識を高めるための教職員資料・児童生徒保健指導資料を作成・共有し、各校の実態に合わせて活用した。教職員と児童生徒への具体的なアプローチにたいへん有効であり、学校全体の危機管理意識を高める手立てとなっている。

研修の資料作成や準備ではICTを活用し、部会内で共有しやすい環境を整えたことも成果の一つといえる。

今回の研究実践は、保健主事、養護教諭が、シミュレーション班、アンケート班、ICT班、教職員資料班、児童生徒保健指導資料班の各班に所属し、一人一役で研修テーマに向けて取り組むことができた。

危機管理能力を高めるためには事前準備をして想定しておくべきことがたくさんあるため、不安が尽きない。そのために今後も、教職員の危機管理能力を高めるために研修を行い、誰でもいつでも自信をもって対応できる環境にしていきたい。また、児童生徒にも自分ができることを考えて行動できる力を身に付けてほしいので、保健指導を定期的に行いたい。

この取り組みを継続し、児童生徒の健康と安全を守るために、教職員の危機管理能力の向上を図っていきたい。

参考文献：浜松市危機管理マニュアル

食物アレルギー緊急時対応マニュアル 浜松市

救命アクションカードを使用した対応訓練モデル

「宮城県東部北部教育事務所管内小中学校主幹教諭（養護教諭）」

救急医・外科医・博士中島 康 先生著 アクションカードで減災対策

日本学校保健会ホームページ アクションカード

命を守る心肺蘇生 AED 小学校安全教育副読本